

ポスター | 薬剤情報システム

## ポスター10 薬剤情報システム

2019年11月24日(日) 09:00 ~ 10:00 ポスター会場1 (国際展示場 展示ホール8)

### [4-P1-1-03] 注射薬調剤監査システム導入による注射薬調剤過誤防止への効果

○岡本 卓也<sup>1</sup>、島村 圭二<sup>1</sup> (1. 医療法人社団 誠馨会 千葉メディカルセンター 薬剤部)

キーワード : Injection medicine dispensing inspection, PORIMS, Dispensing errors prevention

【目的】2019年4月に厚生労働省より「調剤業務のあり方について」、調剤に最終的な責任を有する薬剤師の指示に基づき、当該薬剤師の目の届く場所で薬剤師以外の薬剤取り揃えが可能となった。当院では注射薬調剤において薬剤師以外の人員による注射調剤監査システムを使用しての取り揃えと、薬剤師による調剤監査にて注射薬計数調剤過誤防止の効果への取り組みを行ったので報告する。

【方法】当院薬剤部では注射薬の取り間違い防止対策として、2019年1月より注射薬調剤監査システム[ヒッポクリッパシステム: Hp-PORIMS]を導入した。

調剤方法：①調剤助手(SPD)が翌日分の入院注射箋・病棟別薬品集計表などを出力する。②SPDは集計表のバーコードをHp-PORIMSのハンディターミナル(iPod touch)にて読み取り、薬品名や集計数が表示されるので、それに基づいて取り揃える。③SPDがハンディターミナルで入院注射箋のバーコードを読み取ると患者毎の注射薬と数量が表示されるので、それに基づき注射薬本体のバーコードを数量分読み取り、取り揃える。④薬剤師による調剤、監査を実施する。また、2018年1月～4月のHp-PORIMS導入前の注射薬インシデント件数とHp-PORIMSを導入した2019年1月～4月の注射薬インシデント件数を比較した。

【結果】2018年1月～4月は注射処方枚数28879枚、インシデントは2件(規格間違い1件、計数間違い1件)、2019年1月～4月は注射処方枚数28643枚、インシデント0件であった。

【考察】システムを導入してから、注射薬調剤のインシデントは発生していない。結果、Hp-PORIMSが調剤過誤防止に有用であることが明らかとなった。また、システム導入により、薬剤師以外の人員での取り揃えが可能となり、薬剤師の業務量を軽減し、他の業務に薬剤師の人員を配置できた。

# 注射薬調剤監査システム導入による注射薬調剤過誤防止への効果

岡本卓也、島村圭二

千葉メディカルセンター 薬剤部

## The effect of the injection dispensing audit system to prevent injection dispensing errors

OKAMOTO TAKUYA, SHIMAMURA KEIJI

Department of Pharmacy, Chiba medical center

In late years, composition blunder may lead to serious medical accidents. We need to work on the prevention as the most important issue. Therefore is our hospital, in injection medicine composition, we introduce a picking support system which produced by Hp-PORIMS that uses a bar code of ethical drugs for injection dispensing at our hospital, and report it was useful in preventing dispensing errors.

**Keywords:** Injection medicine dispensing inspection, PORIMS, Dispensing errors prevention

### 1. 緒論

調剤過誤が重大な医療事故につながることもあり、その防止は最重要課題として取り組むべきである。当院ではこれまでも調剤過誤防止に関する様々な取り組みがなされてきた。例えば、調剤・監査方法の変更、調剤過誤の原因分析、薬剤棚への注意喚起などが挙げられる。しかしながら、依然として調剤過誤を完全に防ぐことはできなかった。

また、近年調剤機器関連の発展は著しく、IT 技術等を用いた調剤の自動化が発展しており、医療安全対策の進んだ機器が開発されてきている。

そして、2019 年 4 月に厚生労働省より「調剤業務のあり方について」、調剤に最終的な責任を有する薬剤師の指示に基づき、当該薬剤師の目の届く場所で薬剤師以外の薬剤取り揃えが可能となった。

### 2. 目的

当院薬剤部(薬剤師 41 名、SPD スタッフ 11 名)では、注射薬の取り間違い防止対策として、2019 年 1 月より注射薬調剤監査システム[ピッキングサポートシステム: Hp-PORIMS: ユヤマ]を導入した。導入前後で調剤過誤にどの程度の効果があったかを検証したので報告する。



Hp-PORIMS ハンディターミナル (iPod touch)

### 3. 方法

Hp-PORIMS は、注射処方箋と薬剤をバーコード管理し、ハンディターミナル (iPod touch) で注射処方箋に印字されたバーコードを読み取ることにより無線アクセスポイント経由でオーダデータをハンディターミナルに呼び出し、表示通りに注射薬本体のバーコードを数量分読み取り、オーダの内容に従って正しく薬剤を調剤できているか照合するデジタルツールである。

#### ・調剤方法

①調剤助手 (SPD) が翌日分の入院注射処方箋・病棟別薬品集計表・注射薬ラベルを各病棟単位で出力する。

②薬剤師が処方監査をおこなう。

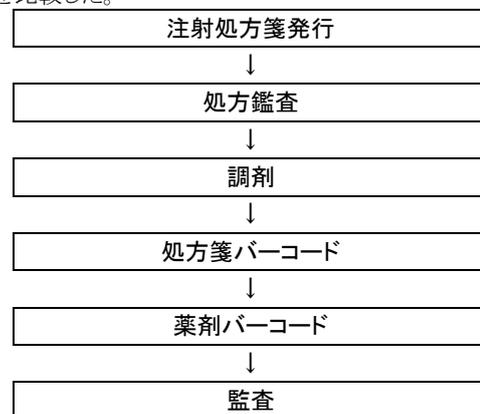
③SPD は集計表のバーコードを Hp-PORIMS のハンディターミナル (iPod touch) にて読み取り、薬品数や集計表が表示されるので、それに基づいて取り揃える。

④SPD がハンディターミナルで入院注射処方箋のバーコードを読み取ると患者毎の注射薬と数量が表示されるので、それに基づき注射薬本体のバーコードを数量分読み取り、取り揃える。

⑤薬剤師による調剤、監査を実施する。

#### ・分析方法

2018 年 1 月～4 月の Hp-PORIMS 導入前の注射薬インシデント件数と導入後の 2019 年 1 月～4 月注射薬インシデント件数を比較した。



Hp-PORIMS を用いた調剤の流れ

#### 4.結果

Hp-PORIMS 導入前である2018年1月～4月は注射処方箋枚数28879枚、インシデント報告は2件(規格間違い1件、計数間違い1件)、Hp-PORIMS 導入後である2019年1月～4月は注射処方箋枚数28643件、インシデント報告は0件であった。

#### 5.考察

Hp-PORIMS は注射処方箋と薬剤をバーコード管理し、注射処方箋内容に従って正しく薬剤を選択できているか照合するシステムであり、今回の検証の結果、実際に計数調剤時の薬剤、規格間違い、調剤漏れといったインシデントを防ぐことができ、調剤過誤防止ツールとしての有用性が明らかとなった。

また、今年度厚労省より、「調剤業務のあり方について」の報告があり、薬剤師以外の薬剤取り揃えが可能となった。当院薬剤部においても、Hp-PORIMS 導入前までは注射薬調剤において薬剤師3名配置していたが、Hp-PORIMS 導入後は薬剤師2名、SPD1名での配置とした。取り揃えをSPDにて、調剤・監査を薬剤師にて行うこととした。そのため、薬剤師1名を他の業務に配置できた。また、現在SPDによる内服薬と外用薬の取り揃えも開始した。